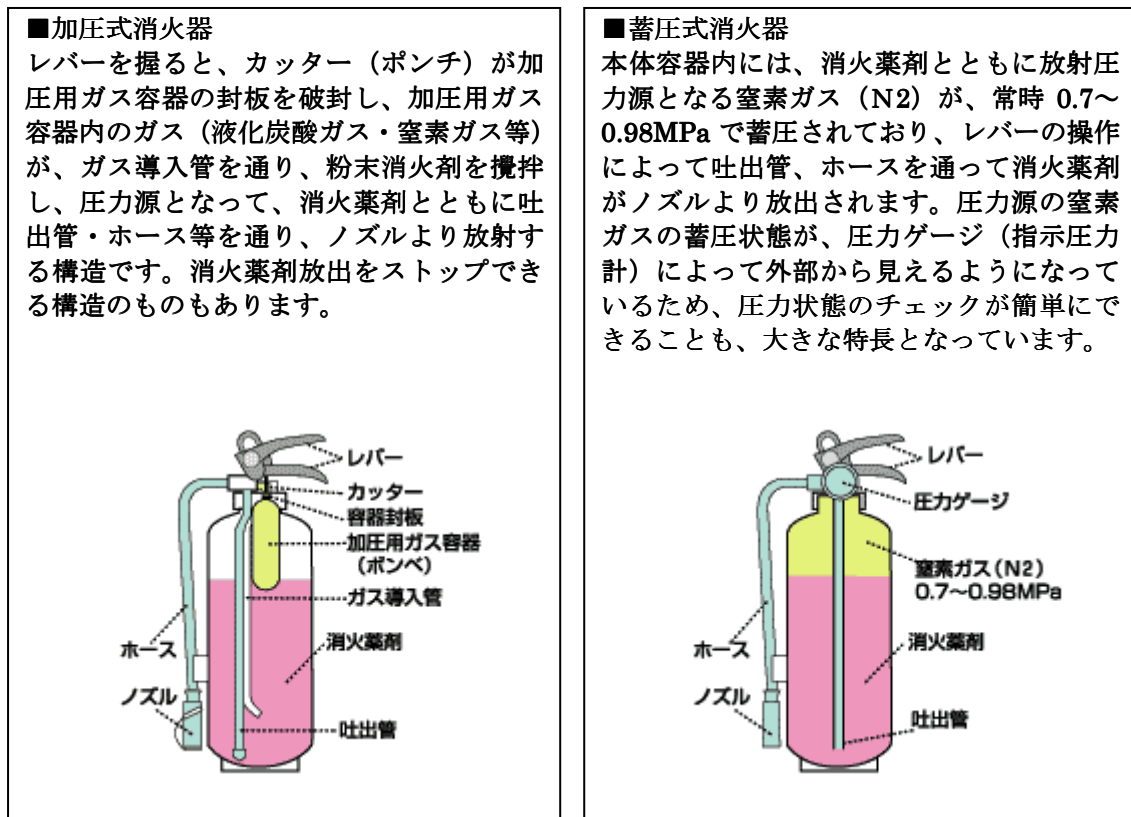


消火器の構造を知って、事故を防ごう！

§ 1 消火器の構造

一般的に普及している粉末消火器の構造をみてみましょう。



上記の説明は少し難しく書かれていますが、簡単にいえば、蓄圧式は消火器本体内に常時圧力がかかっており、加圧式は非常時にレバーを握ることで加圧用ガス容器に穴をあけ、消火器本体内に圧力をかけるもので、どちらもガスを圧力源として消火薬剤を放出します。なお、蓄圧式には本体の圧力状態をチェックするための圧力ゲージがついていますので、このゲージの有無により加圧式と蓄圧式を見分けることができます。

それでは、次に消火器の破裂事故について考えてみましょう。

§ 2 消火器の破裂事故

消火器の破裂事故はなぜ起こるのでしょうか？

さきほどの構造も考えながら、事故の原因を考えてみましょう。

Q1 消火器の破裂事故はどのような消火器に多いのですか？

A1 加圧式の消火器に多く発生しています。

Q2 加圧式の消火器であれば何もしなくても破裂するのですか？

A2 レバーを握り、本体内を加圧しなければ破裂することはありません。

消火器の本体は圧力容器で耐用年数はおおおむね8年とされているのですが、破裂事故のほとんどは耐用年数を大きく経過しており、さらには本体の溶接部分が腐食していたため、レバー操作により加圧用ガス容器に穴をあけたことで、本体内の圧力が急激に高まり弱くなった部分から破裂してしまったものです。

Q3 破裂事故を防止するためのポイントは？

A3 破裂事故を防止する1番のポイントは日常の点検にあります。

早期に異常を発見して、有資格者による点検やすみやかな措置を行うことにより事故を防止することができます。

☆ 最近の破裂事故は、不要になった消火器について、放射、解体等の廃棄処理を自ら行ったことによるものが多く見受けられます。不用消火器の廃棄にあっては必ず回収を行っている事業者に依頼するようにしましょう。特に、腐食が進んでいる加圧式の消火器は、容器破裂の危険性が大きいので、速やかに廃棄処理を依頼してください。

湖 南 広 域 消 防 局